

# あじびニュース

Fukuoka Asian Art Museum News  
"Ajibi" is a nickname of the Fukuoka Asian Art Museum

Ajibi News

# 4

April 2022

Vol.87

2022年度 展覧会&レジデンス・スケジュール  
「ヒンドゥーの神々の物語」展レビュー  
大石始「チューニングし合うアジア音楽のいま」



Special Exhibition

# Emotional Asia



チョン・ヨンドウ [韓国] 「Bewitched」 2001年、宮津大輔所蔵

## エモーションナル・アジア

宮津大輔コレクション × 福岡アジア美術館

9月15日(木) - 12月25日(日) 会場: アジアギャラリーほか

入場料: 一般500円(400円)、高大生250円(200円)、中学生以下無料(予定)

本展は、1990年代から国内外の現代美術を蒐集し、現在では日本のトップコレクターとして知られる宮津大輔氏の個人コレクションと当館所蔵作品を組み合わせ、現代の揺れ動くアジア社会や人間模様を鮮やかに捉えた現代アートを紹介する特別企画展です。また展覧会の一環として、映像作品の上映会や、ポートレース福岡などの街中会場で作品展示をすることで、アジアの現代アートに気軽に会える場をつくります。



左: リム・ソクチャンリナ [カンボジア] 《国道5号線-10》

2020年、福岡アジア美術館所蔵

右: ホウ・ルル・シュウス(候淑姿) [台湾]

《彼方を望んでーアジアから来た花嫁の歌(III): ベトナムの黄氏戀の家族(A)(B)》

2009年、福岡アジア美術館所蔵

## Emotional Asia

Miyatsu Daisuke Collection × Fukuoka Asian Art Museum

Thu. 15 Sep - Sun. 25 Dec | Asia Gallery, etc.

特別企画展 | Special Exhibition

おいでよ！絵本ミュージアム2022

※会期中無休、17:30閉室

Note: The gallery will close at 17:30 daily throughout this exhibition.

7月19日(火) - 8月28日(日) 会場: 企画ギャラリー

Welcome to Picture Book Museum 2022 Tue. 19 July - Sun. 28 Aug | Exhibition Gallery

子どもたちの感性や想像力・創造力を育むために、五感に働きかける様々な仕掛けで、絵本の世界に入り込めるような空間をプロデュースする展覧会です。16回目となる今年は「だいすき！」をテーマに、約1000冊の絵本と原画の展示や様々なイベントを通して、子どもならではの感性の大切さを伝えます。



昨年の様子

小企画展 | Temporary Exhibition

近代美術Ⅶ

インド近代絵画の精華 [仮称]

ナンダラル・ボースとウペンドラ・マハラティ

9月15日(木) - 12月25日(日) 会場: アジアギャラリー

Modern Art VII

The Pearls of Modern Indian Painting (Tentative)

Nandalal Bose and Upendra Maharathi

Thu. 15 Sep - Sun. 25 Dec | Exhibition Gallery

インド近代美術のパイオニアであり、日本画壇との交流もあったベンガル派の画家ナンダラル・ボース(1882-1966)とウペンドラ・マハラティ(1908-81)。ふたりの画業をニューデリー国立近代美術館の所蔵作品で紹介するとともに、当館所蔵のベンガル派の作品をあわせて展示します。

上: ウペンドラ・マハラティ [インド]

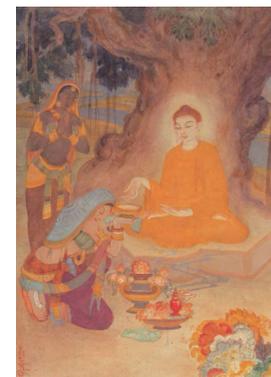
《釈迦に乳米を捧げるスジャータ》1965年、ニューデリー国立近代美術館所蔵

下: ナンダラル・ボース [インド] 《サティ》1943年、ニューデリー国立近代美術館所蔵



सत्यमेव जयते

Consulate General of India  
Osaka-Kobe



※展覧会タイトル、会期は変更することがあります。入場料および詳細は、ホームページをご確認ください。

アジアギャラリー Asia Gallery

# アジアの近現代美術

—黎明期から現代まで

4月7日(木) - 9月6日(火)

Modern and Contemporary Asian Art  
From Its Dawn to the Present Day  
Thu. 7 April - Tue. 6 Sep

アジア近現代美術の代表的な所蔵作品で、19世紀から現代までのアジア美術の流れをたどります。



ルオン・シュアン・ニー「美しい娘」  
《読書する若い娘》1940年



I: 4月7日(木) - 6月14日(火) | Thu. 7 April - Tue. 14 June  
II: 6月16日(木) - 9月6日(火) | Thu. 16 June - Tue. 6 Sep



リュ・ションジョン  
(呂勝中) [中国]  
《○の真形》1991年

丸、三角、四角といった、シンプルな形をつかったアジアの現代美術作品を紹介します。

「私」から問う—多様化するアジアの現代写真  
2023年1月2日(月) - 3月21日(火)

Ask Myself First  
Diversifying Asian Contemporary Photography  
Mon. 2 Jan - Tue. 21 March, 2023



アマンダ・ヘン [シンガポール]  
《発展・もうひとりの女 #4》1998年

写真作品が盛んに制作され始めた1980年代以降の、作者自身を写した作品を紹介します。

不安の時代—1990年代以降の映像表現

I: 4月7日(木) - 6月14日(火) II: 6月16日(木) - 9月6日(火)

The Age of Anxiety: Video Art since 1990s

I: Thu. 7 April - Tue. 14 June II: Thu. 16 June - Tue. 6 Sep



ブー・ホァ(卜樺)  
[中国] 《はびこる野蠻》2008年

世の中の不条理や不安を鋭敏に捉えた1990年代以降のアジアにおけるビデオアートの傑作を紹介します。

境界を行き交う—現代アジアのインスタレーション

2023年1月2日(月) - 3月21日(火)

Crossing Borders  
Installation Art of Contemporary Asia  
Mon. 2 Jan - Tue. 21 March, 2023



岩井成昭 [日本]  
《DIALOGUE》1996-99年

1990年代以降に制作されたアジアの大型インスタレーション作品を紹介します。

草原の国から

—モンゴル美術の50年

4月7日(木) - 6月28日(火)

From the Land of Steppe

50 Years of Mongolian Art

Thu. 7 April - Tue. 28 June



左: ツルテミン・エンクテン [モンゴル] 《窓》1987年  
右: パダムジャヴィン・チョグソム [モンゴル] 《夢》1985年

1972年にはじまった日本・モンゴルの外交関係樹立50周年を記念して、当館の所蔵品でモンゴル美術の50年をたどります。草原や砂漠など雄大な自然や、モンゴルの歴史、現代の生活など様々な主題を扱ったモンゴルの豊かな美術作品をご堪能ください。

あじびで GO GO !

乗り物大集合

6月30日(木) - 9月6日(火)

Vehicles Get Together!

Thu. 30 June - Tue. 6 Sep



左: ワン・ジュンジェ [台湾] 《ヘレナ》1997年  
右: 作者不詳 《マツウラーへ向かうクリシュナ》20世紀前半

働き者のショベルカーから海上フェリーまで、夏休み期間中の美術館に子供たちの大好きな乗り物の絵画や写真が大集結します。さらにはアジアならではの神様の乗り物や、宮廷の豪華なブランコといった、普段とはちょっと違ったアートな乗り物も登場します。

旅立ちのとき

2023年1月2日(月) - 3月21日(火)

Time of Departure

Mon. 2 January - Tue. 21 March, 2023



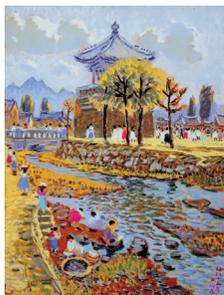
左: チット・ブアブット [タイ] 《上野公園、東京美術学校》1942年  
右: ランパー・カンサノウ [タイ] 《胴上げ》2008年

受験や卒業を経て新たな生活へと旅立つ季節にあわせ、卒業や旅立ち、学び舎や師弟の絆をテーマにした作品を紹介します。タイを離れ日本で学んだ作家が桜咲き誇る春の学び舎を描いた作品など、人生の折々に寄り添うような作品を見つめながら、あなた自身の大切な思い出を振り返ってみましょう。

## あじびコレクションX FAAM Collection X

制作年・場所・主題・技法・作者などの共通項から2-3点の作品を選び出し、対比することによって、それぞれの作品世界を紐解くコーナー展示です。

### I. 日本作家が描いた〈朝鮮〉 4月7日(木) - 6月14日(火)



Korea Depicted by Japanese Artists Thu. 7 April - Tue. 14 June

戦前、アジア各地を旅しながら、その土地の風景や風物を爽やかなパステル画で描いた矢崎千代二と、京城に活動拠点を置き、朝鮮風俗画を艶やかな木版画で摺り上げた松田黎明。彼らが〈朝鮮〉をどのように見て表現したのか、制作方法や画材に注目しながら深掘りします。

矢崎千代二 [日本] 《京城》1940年

### II. ベトナム・モダンの写し鏡 ータ・ティの作品世界 6月16日(木) - 9月6日(火)



Mirror of Modern Vietnam: The World of Ta Ty Thu. 16 June - Tue. 6 Sep

タ・ティ(1920-2004)は、ベトナム近代美術においてキュビズムや抽象絵画の表現をいち早く切り拓いた画家のひとりです。美術学校卒業後間もない1950年に制作した作品を起点に、タ・ティの作風の変化を辿りながら、そこにうつし出されるベトナムならではのモダンな感性に迫ります。

タ・ティ [ベトナム] 《女》1950年

### III. POSTWAR / 戦後 2023年1月2日(月) - 3月21日(火)



リー・ダラブー [カンボジア]  
《伝令》2000 / 2005年

POSTWAR Mon. 2 Jan - Tue. 21 Mar, 2023

日本人にとっての戦後は、太平洋戦争が終結する1945年にはじまりました。しかしすべての国の人々が同じ年に戦後を迎えたわけではなく、今なお戦争に苦しむ国々が世界にあふれています。ベトナム、カンボジアの人々にとっての戦後／POSTWARとは。

## あじびレジデンスの部屋 Room for FAAM Residence Program

「あじびレジデンスの部屋」では、「福岡アジア美術館美術作家招へい事業」(1999年開館～)や「福岡アジア美術トリエンナーレ」で福岡に滞在した作家の滞在中の活動やその後の活躍などを紹介します。

第1期: 4月7日(木) - 9月6日(火)

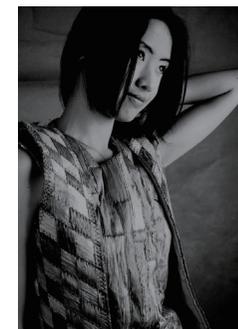
### バナナの葉っぱ作品からSDGsを考える

チャクリット・チムノーク

Vol. 1: Thu. 7 April - Tue. 6 Sep

Thinking SDGs: Chakkrit Chimnok's Banana-Leaf Works

タイの社会では、バナナの葉は昔から様々な用途に使われてきました。バナナの葉を大胆にファッションに取り入れたチャクリット・チムノークの作品と滞在中の活動から、私たちの社会とSDGsについて考えてみましょう。



チャクリット・チムノーク [タイ]  
《身体・想像力 - 乾燥したバナナの葉》2005年

第2期: 9月15日(木) - 12月25日(日)

### 踊りませんか? チョン・ヨンドゥ

Vol. 2: Thu. 15 Sep - Sun. 25 Dec

Jung Young Doo: Shall We Dance?

人々の生活や夢などに取材し、心温まる作品を制作してきた韓国を代表する美術作家のひとりチョン・ヨンドゥ。20年前、2002年にあじびに滞在した時は、美術館に楽しげに踊る人々がいる華やかなダンスパーティ会場を作り出しました。その後の世界的な活躍につづる福岡滞在中の制作活動を、残された記録で辿ります。



「あじびダンスホール」制作風景(2002年)  
©今村薫

第3期: 2023年1月2日(月) - 3月21日(火)

### アパ・カバール? (元気ですか?)

ニンディティオ・アディプルノモ

Vol. 3: Mon. 2 Jan - Tue. 21 Mar, 2023

Nindityo Adipurnomo: Apa Kabar?

インドネシア現代美術の一大ムーブメントを起こしたキーパーソン、ニンディティオ。若き日にあじびに滞在したときの制作記録、また所蔵作品からその活動に迫ります。



ニンディティオ・アディプルノモ  
[インドネシア] 《私はそんなジャワ人ではない》  
2000-2001年



チョジリジャヴィン・バーサンジャブ [モンゴル] 《熱》2013年、福岡アジア美術館所蔵

コレクション展「草原の国で生きる—モンゴル美術の50年」出品作品より。

「2013年度福岡アジア美術館美術作家招へい事業」参加作家。

## 2022年度レジデンス紹介 Introducing our 2022 Residency Artists

### 福岡アジア美術館レジデンス事業 第1期招へい作家

滞在期間：7月 - 10月(90日滞在)

**イ・ビョンチャン** 韓国 / 美術作家

Lee Byungchan (Korea / Artist)

1987年韓国生まれ、ソウル在住。「平昌ビエンナーレ」や釜山現代美術館では、消費生活で大量に廃棄され、環境汚染や生態系の破壊などを引き起こしているビニールやプラスチック素材を用いて、それらを発光させ、動かすことによって都市の中に奇妙な情景を創り出す大型インスタレーションを発表しました。



「生き物」2019年（釜山現代美術館）※参考作品



福岡アジア美術館では、1999年の開館以来、アジアから美術作家・研究者を招聘するレジデンス事業を行ってきました。2022年度からは、「福岡アジア美術館レジデンス事業」としてリニューアルいたします。その第1期として、イ・ビョンチャン（韓国）とジャン・リーロイ（フィリピン）が来福予定です。

※「福岡アジア美術館レジデンス事業」の詳細については、当館ホームページや「あじびニュース」に追って掲載します。

### 福岡アジア美術館レジデンス事業 第1期招へい作家

滞在期間：7月 - 10月(90日滞在)

**ニュー・リーロイ** フィリピン / 美術作家

New Leeroy (Philippines / Artist)

1986年フィリピン、ミンダナオ島生まれ、マニラ在住。ネオンのような蛍光色を用いて、都市の中に巨大なインスタレーションを出現させたり、深海や宇宙の生きものを思わせるコスチュームを纏ったキャラクターによるパフォーマンスなど、多彩な作品を発表しています。「第4回福岡アジア美術トリエンナーレ2009」では、当館入口に大型の彫刻展示をおこないました。



左：「アナサンゴ」2015年 ※参考作品

右：「キメラ」2009年（福岡アジア美術館）※参考作品



Photo by Carlo Saavedra

### 受入支援事業招へい作家

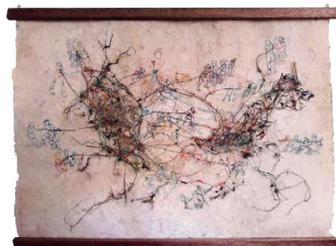
**チェン・イェン・ペン**

マレーシア / 美術作家

Cheng Yen Pheng (Malaysia / Artist)



1982年生まれ、セランゴール在住。自身の生活の中から作品を紡ぎだすアーティスト。シンガポールで開催された「ユナイテッド・オーバーシーズ銀行絵画展2019」にてマレーシア部門最優秀賞を受賞し、当館で1カ月間滞在制作予定。



「綱引き：私のふるさと」2019 ※参考作品

### 受入支援事業招へい作家

**サブリ・イドウルス**

マレーシア / 美術作家

Sabri Idlus (Malaysia / Artist)



1971年ケダ生まれ。シンガポールで開催された「ユナイテッド・オーバーシーズ銀行絵画展2020」にてマレーシア部門最優秀賞を受賞し、当館で1カ月間滞在制作予定。



「見えない薬草」2019 ※参考作品

大盛況!

## ヒンドウの神々の物語展レビュー



2022年の年明けから始まった「ヒンドウの神々の物語」展(1/2-3/29)。連日、熱心に神様の姿を見る来場者が訪れ、大盛況のうちに閉幕しました。

本展は、インドやネパールの人々に愛されてきたヒンドウの神様の姿をご披露した展覧会ですが、その作品を蒐集したコレクター黒田豊さんも、展示企画したあじびの学芸員も日本人です。さて、では南アジアの方や、ヒンドウ教徒の方からは、どんな展覧会に見えたのでしょうか。福岡に住むインドとネパール出身のおふたりにお聞きしました!

レビューしてくれた方

ジーシャ・マニアマさん

Jisha Maniamma (福岡市内IT企業勤務)

インド南部、ケーララ出身のヒンドウ教徒。2013年来日し、ロボットとAIを専門とし、九州工業大学で博士号を取得。インド舞踊のバラタナティウムを学び、日本では能を練習中。



ギャラリートークの様子

展覧会のことを同僚から聞いて、1月9日のオープニング・イベント、「黒田豊ギャラリー・トーク」に駆けつけました。コレクターの黒田さんは、インドの私たちよりもよく神様についてご存知でうれしかったです。展示作品には、インドでは見たことがなかった美しい金更紗もありました。高校の授業で「マハーバーラタ」や「ラーマヤナ」の科目があり、長い長い叙事詩を読んで勉強した神様や細かいストーリーが、展示作品にいっぱい出てきました。

好きな作品

ラージャー・ラヴィ・ヴァルマー《ガンガー女神の降下》

20世紀前半、福岡アジア美術館所蔵

むずかしいけれど、どれか1点を選ぶとしたらこれ! ヒンドウ教の世界の全てが、この作品には描かれているからです。

学芸員から一言

この作品は、ガンジス川の神様、ガンガー女神が天界から降下し、カイラサ山において苦行をしているシヴァ神がそれを額で受けとめ、髪の毛をつたって地上に水が行きわたったというお話の一場面。本展には、この場面を描いた同じ図像の作品が3点あり、人気の画題です。



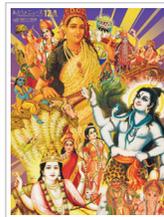
レビューしてくれた方

ラマ・タマン・スリジャナさん

Lama Tamang Srijana (LOVE FM DJ)



ネパール、カトマンズ出身の仏教徒。小さいころからヒンドウ教を身近に感じて育つ。2017年来日し、日本語とメディア論を学ぶ。映画、音楽、とくに日本の80年代の歌謡曲が好き。



Love FMの担当番組でヒンドウの神様の中から、芸術と学問の女神サラスヴァティーを紹介すると、反響がありました! 展覧会では「ラーマヤナ」のストーリーをきちんと伝えるようにしているのが嬉しかった。それと、いろんな神さまが混ざりあったポスター(左)も面白かったです。ネパールでは、ヒンドウ教と仏教が共存してますし、それから生きた女神のクマリの信仰もあります。

◀あじびニュース86号

好きな作品

ムケーシュ・シン《究極の征服者ラーヴァナ》

2013年、作家蔵

最後の章で紹介されていたデジタル・イラストレーションのラーヴァナ。悪鬼ですけど、すごくカッコよくて好きです。



学芸員から一言

この作品を描いたインドのムケーシュ・シンは、これまでのヒンドウ神話のイメージや世界観を独自に解釈・想像して、新しい時代のメディアやデジタル技法を駆使して表現しています。インドのグラフィック界の代表作家のひとりです。



展覧会会場の様子

>>> 「ヒンドウの神々の物語」展 巡回先

岡山市立オリエント美術館 7/16(土) - 9/11(日)

古代オリエント博物館 9/23(金・祝) - 11/27(日)

# チューニングし合う アジア音楽のいま

大石始

ここ数年、アジア各地の音楽シーンに対する注目が高まっている。来日公演を行うインディー・アーティストも増え、台湾のサンセット・ローラーコースターや韓国のイ・ランはいまや日本の音楽フェスにおける常連アーティストだ。その背景にはアジア各地の音楽シーンに対する日本からの眼差しの変化がある。

日本からアジアのローカルな音楽シーンを捉えようとするとき、90年代まではエキゾチックなものとしてその土地の音楽を捉える傾向があった。音楽性のみならず、私たちとどれだけ異なる文化的・民族的背景があるのか。その違いにこそ刺激を見い出そうという、いわばワールドミュージック的な観点が90年代までは主流だったわけだ。

だが、2010年代以降、そうした文化的な違いではなく、共通点にこそ意味が見い出されるようになってきている。たとえば、日本のシティポップやアニメはアジア全域における共通言語となっており、松原みき「真夜中のドア～stay with me」(1979年)をカバーしたインドネシアのレイニッチ(\*1)や、山下達郎や大瀧詠一にインスパイアされた『悠长假期(ロングバケーション)』(\*2)という作品をリリースした中国の李行亮(リー・ハンリャン)は日本でも話題を集めた。また、韓国では「New」と「Retro」を掛け合わせた「ニュートロ」という造語が広まっていて、そうした流れのなかで日本のシティポップ的な



\*1 レイニッチ「真夜中のドア～Stay With Me～」の7インチシングルのジャケット

サウンドやアートワークが人気を集めている。

インターネット環境が各国で整備されたことによって、さまざまな音楽を瞬時に共有できる環境が整った。国を超えたコラボレーションをするための土壌が整ったともいえるだろうか。その一方で、音楽的な均質化が進み、地域ごとのオリジナリティーが失われつつあるともいえる。

そうしたなかで自分たちの文化的アイデンティティーがどこにあるのか、自問自答しながらそれぞれのローカルミュージックを生み出そうと奮闘するアーティストもいる。韓国ではイナルチやNST&ザ・ソウルソース、アクダンガンチル(\*3)など自国の伝統音楽に新たなアプローチを持ち込むグループが増えているが、こうした傾向は日本を含め各国で見られるものだ。

音楽やファッションを通じて自分たちの民族

的アイデンティティーを打ち出す際、セルフオリエンタリズム的な表現に陥る危険性も孕んでいる。欧米が期待するアジア像をみずから演じ、欧米からの視線を内面化してしまう危うさ。その狭間でどのようなローカルミュージックを奏でることができるのか。90年代のワールドミュージックをある種の反面教師としながら、各地で創作活動が続けられている。

オリンピックのように出身国の国旗を背負った者同士の異文化交流なコラボレーションではなく、個人と個人の対話としてのコラボレーションが増えつつあるのも現代アジアの特徴だ。韓国のイ・ランと日本の折坂悠太がソウルの漢江という大きな河のほとりて撮影した「調律」という楽曲の共演動画は象徴的である。日本と韓国を背負ったコラボレーションではなく、あくまでも個人として声を重ね合わせ、寄り添うようにしてお互いのチューニングを合わせていく。現代のアジアならではのコラボレーションのカタチがここにある。

## 大石始(おおいしはじめ)

地域と風土をテーマとする文筆家・選曲家。著書に『盆踊りの戦後史』(筑摩書房)、『奥東京人に会いに行く』(晶文社)、『ニッポンのマツリズム』(アルテスパブリッシング)など。

大石始さんには、「映像でめぐるアジア音楽のいま」と題して、ジャンルと国籍を超えて進化を続けるアジア音楽の魅力を、近年に発表されたミュージックビデオやアジア各地の関係者へのリモート取材を交えてお話いただきました。

(福岡ミュージアム・ウィーク2021)トーク・イベント、2022年2月26日、あじびホール)



\*2 李行亮『悠长假期』のアルバムジャケット



\*3 アクダンガンチル



 福岡アジア美術館  
Fukuoka Asian Art Museum

<https://faam.city.fukuoka.lg.jp/> TEL 092-263-1100

〒812-0027 福岡市博多区下川端町3-1 リバインセンタービル7・8階

7・8F, Riverain Center Bldg., 3-1 Shimokawabata-machi, Hakata-ku, Fukuoka, 812-0027, Japan

ギャラリー観覧時間 9:30 - 18:00 (金曜・土曜日は20:00まで)※ギャラリー入室は閉室30分前まで

開館時間 9:30 - 19:30 (金曜・土曜日は20:00まで)※あじびホール、アートカフェなど

休館日 毎週水曜日(水曜日が休日の場合はその翌平日)、年末・年始(12/26 - 1/1)

## アジアギャラリー Asia Gallery

## 企画ギャラリー Exhibition Gallery

4

■ **アジアの近現代美術 - 黎明期から現代まで**  
 Modern and Contemporary Asian Art - From Its Dawn to the Present Day  
 4/7(木) - 9/6(火) Thu. 7 April - Tue. 6 Sep

□ ○ △ □ ■ **不安の時代 - 1990年代以降の映像表現**  
 The Age of Anxiety: Video Art since 1990s

I: 4/7(木) - 6/14(火) I: Thu. 7 April - Tue. 14 June  
 II: 6/16(木) - 9/6(火) II: Thu. 16 June - Tue. 6 Sep

■ **あじびレジデンスの部屋①**  
 パナナの葉っぱ作品からSDGsを考える チャクリット・チムノーク  
 Room for FAAM Residence Program, Vol. 1  
 Thinking SDGs: Chakkril Chimnok's Banana-Leaf Works  
 4/7(木) - 9/6(火) Thu. 7 April - Tue. 6 Sep

■ **あじコレX-I 日本人作家が描いた〈朝鮮〉**  
 FAAM Collection X-I, Korea Depicted by Japanese Artists  
 4/7(木) - 6/14(火) Thu. 7 April - Tue. 14 June

■ **草原の国から - モンゴル美術の50年**  
 From the Land of Steppe: 50 years of Mongolian Art  
 4/7(木) - 6/14(火) Thu. 7 April - Tue. 14 June

■ **あじコレX-II ベトナム・モダンの写し鏡 - タ・ティの作品世界**  
 FAAM Collection X-II, Mirror of Modern Vietnam: The World of Ta Ty  
 6/16(木) - 9/6(火) Thu. 16 June - Tue. 6 Sep

■ **あじびで GO GO ! 乗り物大集合**  
 Vehicles Get Together!  
 6/30(木) - 9/6(火) Thu. 30 June - Tue. 6 Sep

休室

9

■ **エモーションナル・アジア**  
 宮津大輔コレクション × 福岡アジア美術館  
 Emotional Asia: Miyatsu Daisuke Collection × Fukuoka Asian Art Museum  
 9/15(木) - 12/25(日) Thu. 15 Sep - Sun. 25 Dec

■ **近代美術VII**  
**インド近代絵画の精華** [仮称]  
 - ナンダラル・ボースとウペンドラ・マハラティ  
 Modern Art VII The Pearls of Modern Indian Painting (Tentative)  
 Nandalal Bose and Upendra Maharathi  
 9/15(木) - 12/25(日) Thu. 15 Sep - Sun. 25 Dec

■ **あじびレジデンスの部屋②**  
 踊りませんか? チョン・ヨンドゥ  
 Room for FAAM Residence Program, Vol. 2  
 Shall We Dance? Jung Young Doo  
 9/15(木) - 12/25(日) Thu. 15 Sep - Sun. 25 Dec

休室

1

■ **アジアの近現代美術** Modern and Contemporary Asian Art  
 2023/1/2(月) - 3/21(火) Mon. 2 Jan - Tue. 21 March, 2023

■ **「私」から問う - 多様化するアジアの現代写真**  
 Ask Myself First: Diversifying Asian Contemporary Photography

■ **境界を行き交う - 現代アジアのインスタレーション** ■ **旅立ちのとき**  
 Crossing Borders: Installation Art of Contemporary Asia Time of Departure  
 2023/1/2(月) - 3/21(火) Mon. 2 Jan - Tue. 21 March, 2023

■ **あじコレX-III POSTWAR / 戦後** ■ **旅立ちのとき**  
 FAAM Collection X-III, POSTWAR Time of Departure  
 2023/1/2(月) - 3/21(火) Mon. 2 Jan - Tue. 21 March, 2023

■ **あじびレジデンスの部屋③**  
 アバ・カバール(元気ですか)? ニンディティオ・アディプルノモ  
 Room for FAAM Residence Program, Vol. 3 Apa Kabar? Nindityo Adipurnomo  
 2023/1/2(月) - 3/21(火) Mon. 2 Jan - Tue. 21 March, 2023

**アニメージュとジブリ展**  
 一冊の雑誌からジブリは始まった

Animage and Ghibli Exhibition:  
 The magazine where Ghibli started

4/8(金) - 7/10(日)  
 Fri. 8 April - Sun. 10 July



©1984 Studio Ghibli・H

**おいでよ! 絵本ミュージアム2022**

Welcome to Picture Book Museum 2022

7/19(火) - 8/28(日)  
 Tue. 19 July - Sun. 28 Aug  
 ※会期中無休



昨年の様子

**入江明日香展**  
 時空の旅人

Asuka Irie:  
 A traveler beyond  
 space and time  
 9/3(土) - 10/9(日)  
 Sat. 3 Sep - Sun. 9 Oct



入江明日香 (L'Alpha et l'Oméga) (左隻)  
 「始まりと終わり (Alpha and Omega)」(部分)  
 2019 丸沼芸術の森

**ゴールデンカムイ展**

GOLDEN KAMUY  
 SPECIAL EXHIBITION  
 10/15(土) - 11/27(日)  
 Sat. 15 Oct - Sun. 27 Nov



© 野田サトル/集英社

**バンクシーって誰? 展**

WHO IS BANKSY?  
 12/17(土) - 2023年3/26(日)  
 Sat. 17 Dec - Sun. 26 March, 2023

WHO IS BANKSY?



「あじびニュース」は、ただ今  
 今後のリニューアルに向けて、  
 デザインやサイズなど試行中です。